

平成 25 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 25 年 11 月 25 日

学 長 殿

所属部局・職名 行政政策学類・准教授

申 請 者 名 阿部 浩一

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (○学術出版・叢書・学会等) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事業名	阿部浩一・福島大学つくしまふくしま未来支援センター 編『ふくしま再生と歴史・文化遺産』(山川出版社)の出版 助成
事業実施期間	平成 25 年 6 月 ~ 平成 25 年 11 月
成果の概要	<p>本書は、2013年2月3日に福島県文化センターにて開催されたシンポジウム「ふくしま再生と歴史・文化遺産」での基調講演ならびに口頭報告を中心に、関連する書下ろし論考数編を加えて再編集したものである。本学の学術出版助成金を受けて、(株)山川出版社より上梓することができた(2013年11月25日第1版第1冊)。</p> <p>本書の構成であるが、まず五味文彦氏が基調講演で、東日本大震災を経験して歴史の見方、歴史資料の読み方が変わったとし、歴史の中に災害を乗り越えて復興する力強さを見出し、多彩な着眼点から地域の力を引き出すことによって歴史資料のもつ魅力の発掘につとめることの重要性を強調している。</p> <p>第Ⅰ部「原発事故警戒区域内の文化財保全 ―被災文化財の今後を考える―」では、丹野隆明氏が福島県全体の文化財等の被災状況と保全活動の経緯について、吉野高光・中野幸大・三瓶秀文の三氏が旧警戒区域内での歴史・文化遺産の保全活動の経緯と課題についてまとめている。</p> <p>第Ⅱ部「福島県の歴史・文化遺産の今、そして未来」では、震災後に本格化した県内各地での歴史・文化遺産の保全活動について、泉田邦彦・本間宏・内山大介の三氏ならびに編者が個別事例の紹介と課題の提起を行っている。</p> <p>第Ⅲ部「ディスカッションと提言」では、個別報告だけでは十分言及できなかった諸点について理解を深めてもらうこととあわせて、菊地芳朗氏が原発事故被災文化財等収蔵活用施設の設置を国に要望する具体案を提示している。</p> <p>本書を通じて、地域の歴史・文化遺産を保全することが地域住民にとっての「心の復興」につながる重要な課題であることを提起し、福島県での本活動の意義を世論に強く訴えかけていくとともに、本学を担い手の一つとする歴史資料保全活動のすそ野が広がっていくことを期待したい。</p>

ふくしま再生と 歴史・文化遺産



阿部浩一
福島大学つくしまふくしま未来支援センター 編

東日本大震災後の地域社会を 歴史と文化が護る

原発事故・津波・地震から2年が経過し、歴史資料や有形無形の文化財をいかに保全・活用していくのか。地域に根ざした歴史と文化が、復興・コミュニティ再生の鍵となる。

山川出版社 定価：本体1800円(税別)